



山桜

高階西中だより 第21号
平成27年11月20日

川越市立高階西中学校

全員が「本気」で取り組んだ合唱コンクール 感動をありがとう!!

～合唱コンクールで学んだことをこれからの人生に活かそう～

校長 長井正邦

素晴らしい合唱コンクールでした。

練習期間から、実行委員・指揮者・伴奏者・パートリーダーを中心に各学級・各学年で心をつなげて取り組んできました。さらに、学級間や学年間で切磋琢磨して、自分たちの合唱に磨きをかけてきました。

一年生は、変声期にもかかわらず男女のバランスがとれたさわやかで素敵な合唱でした。

二年生のレベルの高さに感動しました。練習期間での成長が著しく、今から一年後も楽しみです。

そして、三年生。全ての学級が「校内合唱コンクールの域を超えた合唱」を披露してくれました。「自分の全てを出し切ろうという決意」「仲間を信じて、集大成の合唱を創ろうという想い」「支えてくれた先生方や家族に込めた感謝」などがしっかりと伝わってきて、何度も何度も胸に熱いものがこみ上げてきました。感動をありがとう。本当にありがとう。

コンクールですから、受賞できた学級・指揮者や伴奏者、残念ながら賞に届かなかった学級・指揮者や伴奏者と結果は分かれました。しかし、私にとっては全ての学級・全ての生徒が受賞に値する合唱でした。外部講師として、審査を担当していただいた東邦音楽大学教授の山田一彦先生からは、「三年生3クラスとも非常にレベルの高い、完成された合唱」とお褒めの言葉をいただきました。

平成27年度高階西中学校合唱コンクール。

私は、本気で取り組む皆さんを目の当たりにして、皆さんのことが一層大好きになりました。

さて、あの感動から三週間。皆さんは、合唱コンクールをとおして様々なことを学び、様々なものを得たことと思います。

わずか10分間のステージという目標を目指して、努力を積み上げる強い意志。

自己中心的でもない、付和雷同でもない、自分で考え判断し行動することの尊さ。

自分が相手の立場だったらと考えて、互いに認め合い尊重し合う思いやり。

ぶつかったり気まづくなったりしながらも、それを乗り越えてこそ生まれる真の友情。

集団の一員として、自分が担う役割や責任をしっかりと果たすことの大切さ。

高階西中のよさを先輩から受け継ぎ、後輩に伝えていくことの誇り。

学んだことや得たものは人それぞれ様々だと思います。大切なことは、それらをこれからの学校生活や自分の人生において活かすことです。

今後様々な課題に直面したり、壁にぶつかったりすることがあると思います。そんなとき、「本気」で取り組んだ合唱コンクールを思い出してみてください。課題を解決したり、壁を乗り越えたりするためのヒントが見出せるはずです。

皆さんならきっとできます。期待しています。

保護者・地域の皆様へ

合唱コンクール実施にあたり、御理解御協力を賜り改めて御礼申し上げます。

当日は天候にも恵まれ、「本格的な芸術ホール」という素晴らしい環境で子供たちが練習の成果を遺憾なく発揮することができました。

教職員一同、生徒たちが合唱コンクールをとおして身に付けた力を大切に、「一人一人のよさを活かし、一人一人を確実に成長させる教育」を推進するため、一層の努力を重ねてまいります。

引き続き、皆様方の温かい御支援を心からお願い申し上げます。

(校長)

《審査結果》

金賞 1年1組
2年2組
3年3組 (川越市音楽祭出場)

指揮者賞

※生徒氏名省略

伴奏者賞



《川越市小中音楽会》

11月9日(月)に「やまぶき会館」において「川越市小中音楽会」が行われました。

本校の代表として3年3組が参加し、3年1組・2組と切磋琢磨して磨きあげた素晴らしい合唱の集大成を披露してくれました。

《実行委員の皆さんに感謝!!》

物事を成し遂げるには、結果も大切ですが、その取組の過程が大切です。感動の合唱コンクールが実施できた過程には、誰よりも悩み苦しみに常にクラスのために行動してくれた実行委員の皆さんの存在があります。本当にありがとうございました。

1年

2年

3年

※生徒氏名省略

《職員合唱》

職員合唱で、「ひまわりの約束」を生徒の皆さんへのメッセージとして歌いました。昨年公開された映画「STAND BY ME ドラえもん」の主題歌なので、聞いたことのある人も多かったと思います。歌詞の中に、次のような部分があります。



「そばにいたいよ 君のために出来ることが 僕にあるかな
いつも君に ずっと君に 笑っていてほしくて
ひまわりのような まっすぐなその優しさを 温もりを 全部
これからは僕も 届けていきたい ここにある幸せに 気づいたから」
ドラえもんとのび太のように、生徒の皆さんとどんな時も、良いことも悪いことも、一緒に歩いて乗り越えていける間柄でありたい…という気持ちを込めて歌いました。